

公民館運営審議会
第7回定例会

議 事 録

日 時 2023年(令和5年)5月30日(火)
場 所 藤沢市役所本庁舎 8-1、8-2会議室

公民館運営審議会 第7回定例会 次第

日時：2023年（令和5年）5月30日（火）

午前10時～正午

場所：藤沢市役所本庁舎 8-1・8-2会議室

1 議 題

(1) 令和5年度公民館事業計画について【資料1】

2 その他

【出席委員】

(委員長) 田中章 (副委員長) 三宅裕子
鈴木正文 内田昌子 青木純子 落合英雄 猪野恭子 森一廣 飯島富士男 有賀眞弓
櫻井智子 佐藤正志 了戒純一 日下部和美 中岡正春 青木美和子 大石笑子 大町奈央

【事務局】

横田参事 浅上主幹 守屋課長補佐 佐久間上級主査

***** 午前10時00分 開会 *****

委員長 これより公民館運営審議会第7回定例会を開催いたします。定例会の円滑な進行に御協力をお願いいたします。

まず、事務局から欠席委員の確認及び会議の成立、傍聴者、会議の公開・非公開、配付資料についての報告をお願いいたします。

事務局 村田の後任で参りました守屋と申します。よろしくお願いたします。

それでは、会議のご報告をさせていただきます。藤沢市公民館条例施行規則第3条により、審議会の成立要件として過半数以上の出席が必要とされておりますが、委員定数20名に対しまして、本日の出席委員18人欠席委員に2人でありますので、会議は成立いたしましたことをご報告申し上げます。本日は、西上委員と小林委員が欠席となっております。なお、大町委員におかれましては、ご覧の通りリモートで参加という形になります。大町委員の音声は、現在機器トラブルで出ていないのですが、こちらの声は聞こえております。この辺りは事務局の方で対応させていただきながら、進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

傍聴者につきまして、本日の傍聴者はございません。

本日の会議につきましては、公開とさせていただきます。

最後にお手元の資料の確認をさせていただきます。次第と資料1としてホチキス止めさせていただいております「令和5年度公民館事業計画重点目標を集計表」となります。過不足等ございませんでしょうか。

以上になります。よろしくお願いたします。

委員長 ありがとうございます。それでは議題1「令和5年度公民館事業計画について」から進めてまいります。事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは令和5年度公民館事業計画についてご説明させていただきます。資料1をご覧ください。お配りさせていただいているのは、令和5年度公民館事業計画となりまして、令和5年度の事業計画重点目標等を集計したものになっております。こちらの計画につきましては、昨年度、委員の皆様にご審議いただいて策定いたしました令和5年度藤沢市公民館事業計画基本方針、こちらに基づいて各公民館が4月に作成をしたものとなっております。

4ページ以降は各公民館のページとなりまして、見開きで左側のページが事業の重点目標の該当事業で、見開きの右側が集計表のページ構成となっております。また30ページ以降につきましては、各公民館の大項目ごとの集計が記載されております。計画策定に当たりましては、公民館ごとの評議員会でご意見をいただいて、それをもとに各公民館で作成している内容となっております。説明については以上となります。

委員長 ありがとうございます。この計画は、各公民館の評議員会で議論の上、まとめられたと理解しておりますので、せっかく各公民館から皆様おいでになっていらっしゃると思いますので、自分の公民館はこういったところが評議員からの意見を反映して評価できる、といった形でポイントを簡単にご紹介いただければと思います。順番に行きたいと思っておりますのでよろしいですか。藤沢公民館の鈴木委員からお願いいたします。

鈴木委員 おはようございます。やっぱり飛散防止パネルがないといいですね。開放感があります。藤沢公民館ですが、ICTの活用に関する事業が1回ということで少ないですけれども、これからもっと増やしていきましょうとなっております、スマホ関係で、お年寄りがついていけないだろうということで改善する余地があるという話をいたしました。

それから、新たな層の学習機会の拡張を図る事業ということでかなり数多くなっております。これは他の公民館でも同様の傾向にあるのではと思います。やはり学びの機会ということで、今回、重点目標としましたので、色々な分野でこういう学びの機会を多く出しています。まだまだこれから開かれた公民館ということを目指して頑張っていきたいと思っております。以上です。

委員長 鈴木委員ありがとうございました。次は村岡ですね。内田委員お願いいたします。

内田委員 村岡公民館でございます。村岡では、防災カフェがたくさんの方が参加して盛んです。それから、スマートフォン講座はいつも希望が多く、今年度もしっかりやろうということになっております。村岡ギャラリーというのがございまして、公民館まつりでできない部

分を、各サークルが何週間というサイクルで公民館の中に展示して発表するということをいたしました。以上です。

委員長 ありがとうございます。続きまして六会ですね。青木委員お願いいたします。

青木（純）委員 六会公民館です。六会では、長く続けている稲を育てるところから、しめ縄作りをする事業があり、子どもたちが田植えに関わり、地域の稲を育ててくださる方からしめ縄を作る技術を教えていただき、そういう半年以上かかって行う事業を長年続けております。これは六会地域の特性のある大事な事業なので、評議員の方からも続けていってほしいと言われていています。一方で、先日評議員会の中で、技術を伝える次の世代の担い手不足問題があったり、夏に草むしりをするのが本当に高齢者の方々が大変になってきたりという色々な問題が挙がっています。ボランティアが地域町内会でできるなど良い報告も受けました。とても自慢できる事業かなと思っております。

またサウンドテーブルテニスという視覚障がい者向けの事業がありまして、これも六会は長く続けております。とてもいい事業ですけれど障がい者のスポーツは他にもあるので、開拓をしてもいいのではという意見もありました。他にも地域の特性を生かした、総合施設環境プラザとの共催事業などありますけれどもとても皆さん頑張っていると思います。以上です。

委員長 ありがとうございます。次は12ページを皆さんご覧ください。片瀬の落合委員お願いいたします。

落合委員 公民館の重点目標事業はその記載の通りであります。夜のリフレッシュエクササイズは、昼間にお勤めの方は参加が無理だということで、夜に開催しました。短時間で興味を持っていただいて、仲間作りをしていただくということで昨年からやっています。次の、オレの挑戦！！ダンディズムは男の人を対象としていて、普段なかなか地域の活動に触れないという男性を対象に、料理やお酒などをテーマに、2年目で今年も実施しています。講座の参加者がやがて、これから地域の人との繋がりになればという狙いがあります。

スマホのお助け隊、デジタル活用講習会は、ICTの活用について質問が多いテーマです。そもそも「デジタルディバイト」という言葉は何だということからはじめ、有益であるだとか、便利だよってということの実践的なことで、進めていきたいなど。子どもたちについてもコロナ禍が終わったので、小さな子どもを持つ親御さんを対象に、体操やとかマッ

サージをテーマに事業やっています。それ以外に子育てに関する質問やフリートークの時間を大事にしてそれぞれ悩みを共有していく事業を行う予定です。

ふれあいまつりとか、サークル交流会、少年少女探検隊も八ヶ岳に行く事業をやっていますが、わくわく子ども天国は、各地域の施設で1日楽しむということで、子どもたちと地域の大人たちが交流できるような、新しいことをやっというと考えています。それから資料には無いですが、去年から、様々な連携事業を進め、人材発掘ということで、色々な団体とできるだけ連携をし、繋がりを進めようというところを始めました。そういう中で去年のボランティア養成を行ったのですが、なかなか人が集まりませんでした。自分の楽しみでは参加するが、何かのためにという気持ちはあっても、それやるというと中々参加しないということがあります。コロナ禍ということもあったかもしれないので、今年度も活動を広げようということで、もう1回実施を予定しています。

最後に私どもで議論になったのは、公民館が一般のカルチャーセンターの廉価版のような施設利用になってないだろうかと、注意をすることです。楽しんで終わるだけの公民館活動ではなくて、それが地域の結びつきだとか、地域全体の環境だとか、新しい学びをつくることによって、地域の社会教育が広がるとか、そういうことを常々忘れないようにしようということなんです。多くの方に広報する、連携する、そして紙だけではない様々な媒体を使って事業を宣伝していく、また事業を行った成果として、発表会や活用の機会を広げようということによって皆さんに了承いただきました。以上です。

委員長 ありがとうございます。続きまして明治公民館ですね、14ページをご覧くださいと思います。

猪野委員 明治公民館の事業です。子育て関係、学生・中学生関係、成人関係といった形で事業を行っております。子育てに関しては、愛する子、育て！という保育付きの講座を行っており、お母様方にこれからの子育て生活の参考になるような講座として開催しております。

今回、中高生向けで、企業連携として無印のご協力をいただいて、染色ということをテーマに講座を行いました。これまで公民館ではなかなか高校生の参加は少なかったのですが、これには中高生もたくさん参加してくれました。一つ新しい切り口としてできたので、今後も中高生の参加ができるような企画計画をということを考えております。

コロナが緩和されてから、男性の男腕まくりの料理教室であるとか、企業連携でメルシヤンさんとのワインセミナーも復活しております。

また、高齢者向けのICT講座もかなり人気のある授業ですので進めております。夏休みに関しては、こどもなつまつりという事業があって、地区内の青少年事業に関係ある団体が参

加して、子どもたちと遊ぶ事業やるのですけれども、そこで小学生のボランティアを募集していて、昨年度は8名来てくれました。運営であるとか、それぞれのコーナーのお手伝いをさせていただきました。今年もボランティアを10名ほど募集して、参加する側ではなくてサポートする側に参加してもらう形も取っております。なかなか日中お仕事で参加できない成人男性とか、働いている方に向けては、夜間のサーキットトレーニングということで体育館の開放なども行っております。以上でございます。

委員長 ありがとうございます。続いて16ページになりますが御所見公民館の説明をお願いいたします。

森委員 御所見の評議員の森と申します。御所見公民館の取組として説明させていただきます。重点目標ですが最近、人生100年時代ということで年々高齢化してきた中で、どうすれば健康寿命を確保できるかということで、高齢者を対象として食事などをテーマにした講座を開きました。それからスマートフォン講座ですが、ガラケーが生産中止、サービスも中止というような形になっており、スマートフォンをどうしても高齢者も利用しなければならないということで、親戚だとかいろいろ連絡を取るためにも、スマートフォンを取り入れていかなければならないということで講座を開いています。また、公民館に出て来られない方に対しても、集会場などお借りして、出張講座を開催しようと検討しています。

サークルの見学会というサークル支援を行っています。御所見ではサークルの減少が進んでいるため、サークル活動を支援し、地域を活性化させるために、サークル同士でお互いに活動を見て、運営の参考にするという取組を行っています。

それからおしごと王国という、子どもたちに田舎のもの作り、畑、大工仕事、左官仕事などいろいろと体験していただいて、子どもの将来の参考になるように事業をおこなっています。以上です。

委員長 ありがとうございます。続きまして、18ページです。遠藤公民館、飯島委員お願いします。

飯島委員 遠藤の公民館事業の中で一番興味深かったのが、スマートフォン活用講座があります。高齢者の方が多く来られます。一方で「地域の縁側もんのきの家」という事業ありまして、そこでも慶應の学生さんが協力していただいて、いろんなことやっています。公民館

事業とそこの事業が時々重なったりしていることもあり、スマートフォン講座などがそうです。

公民館の評議員会にも慶應の学生さんが来ていただいています。子どもを対象にした事業を増やさなきゃいけないと意見があります。自分のやりたいことや、気に入ったものには参加するというのが多いのですが、他のものについて人数は少ないと思います。コロナの影響もあると思うが、公民館事業に関しては、出てきてくれる人がちょっと少ないのではと感じており、今年度も慶應の学生さんが変わらして、いろいろ案を出していただけるようになっておりますので、考え直していかないといけないのかなと思います。評議員も毎回同じ人ばかりで、皆さんその他にも地区の役を1人で二つ三つやっているの、まとまらないというのがあります。新しい若い世代の方に引き継いでいきたいとは思っているのですが、自分も60半ばであって一番若い歳なのです。どこの会でもそんな感じなので、もう少し若い世代のものを増やして行って、事業的なこともちょっと若い者が出てこられるようなことを考えてやっていきたいと思っております。

委員長 はい、ありがとうございました。長後になります。20ページ、有賀さんから お願いいたします。

有賀委員 長後公民館有賀です。まず今年の事業計画基本方針の重点目標がとてもわかりやすかった、重点事業や地域の課題に応じた事業の説明に関しても、とてもわかりやすく事業を立てやすかったという意見がありました。従来ですと、どこに入れたらいいのかと迷ってしまう事業がいくつかありましたが、今年は収まりがよく、とてもわかりやすかったです。

今年度は事業数が多くて、大丈夫なのかなと心配したのですが、コロナ禍が明けて、みんなとてもやる気があって、あれもやりたいこれもやりたいという結果だそうです。職員の負担はと尋ねたのですが「上手に回していくので大丈夫です」とのこと、安心して楽しみにしたいなと思っております。

特に様々な機関と連携した事業がまた今年もとても多いのですが、これは地域団体や、地元の高校、そして地元にある企業や商店との関係性がとてもよくて、皆さん公民館を応援してくださっていることが実感としてあります。公民館は周知広報ですとか、そういうノウハウがあるので、一緒に組んで取り組めば違ったものができるのではないかと地域団体も公民館を頼りにしてくれていて、一緒にやりたいと思っております。

電子申請をだいぶ様々な事業で取り入れてきたのですが、評議員会としては、情報技術に関して弱者の方もいらっしゃるの、電話での受付も続けてほしいと伝えています。

もちろん事業によりますけれども、特に高齢者の方が参加したいだろう事業に関しては、電子申請のみとせず電話での受付もまだしばらくは続けていってほしい。また、その反面でICTの講座を開いて高齢者の方に電子申請を教えればいいのではと、そのように段々と電子申請に移行していく道筋をつけていってほしいと評議員会としてはお願いしているところです。

委員長 ありがとうございます。それでは、22ページ辻堂公民館櫻井委員からお願いいたします。

櫻井委員 辻堂公民館の櫻井です。おはようございます。辻堂公民館では昨年、建物も新しくなってから初めての辻堂公民館まつりを開催し、6,000人近くの方が参加していただきました。色々な課題も出たのですが、無事終了することができました。

辻堂公民館の近くには白浜養護学校という養護学校がありますが、そちらの生徒さんの作品を、公民館で一般の方に販売をするという事業を実施しました。地域の方との交流を長い時間は難しいそうなので、短い時間ですけれども、自分で作ったものを売って、包装してお客様にお渡しするっていう作業を本当楽しそうに行っていました。その後の感想を聞いても、すごく楽しかったというご意見をいただいているので、辻堂公民館では引き続き時間数を少しずつ伸ばすなどして、事業を続けていきたいと思っております。

資料に記載のあるTSUJIDOギャラリーでも、入口のところに養護学校の生徒さんの大胆な作品を展示しており、皆さんに見ていただく機会が増えるといいなと思っております。

皆様の他のところの公民館では、「新規」の事業がすごく多かったのにちょっと驚きまして、皆様のところでは今まで参加人数が少ないものも切り替えてどんどん新規に変えていっているのかなと疑問だったので、教えていただけたらなと思いました。

委員長 櫻井委員ありがとうございます。続いて善行公民館ですね、24ページをご覧ください。佐藤委員お願いします。

佐藤委員 善行公民館の佐藤です。よろしく申し上げます。公民館まつりを3年ぶりに実施しました。善行公民館も施設が新しいため、駐車場から全部変わってしまって、その中で展開するにはということで、だいぶ工夫をしました。当日は、和気あいあいと非常に楽しくできました。事前の準備の際に、面白く、ドラマチックに見えた事がありました。高齢の方は、知識や経験が豊富。その方が、若い方々にこれはこういう意味で今までやってきたのだよ。と伝授しているのです。これは公民館だからこそのことで、学校教育じゃちょ

っと無理ですからね。私、以前からこの場で寺子屋教育的な公民館の活動ということをお話ししていますが、高齢者から教わるだけじゃないのです。今度は、高齢者の方が、その若い方からこのスマホの使い方って言われたときに、軽々と若い人はみんなやってしまうのですが、ゆっくりペースを合わせてやってらっしゃった。かなりドラマチックな面が伺えました。

それと新しい実験的な事業を行いました。善行子ども探検隊Kid'sこれは、地域課題に応じた事業という中に、共生社会と人権に関する事業がございますよね。そこにちょうどヒットするものです。善行地区の社会福祉協議会、それからふれあい部会の協力のもと、9月に落花生掘りを体験しました。和気あいあいと小さい子たちが夢中でやるのですが、この中に障がい者の方がいるっていうことに、すごく心配りが利くのです。理屈で考えるのではなくて、手を動かす体を使うといったところに、障がい者の方がこんなに大変な思いでいるのだよってということが肌で感じる体験学習でした。その中で小学生の高学年ですね、何名かこれぞ将来、ボランティア活動のリーダーとしてやっていける人たちじゃないのかな。ですからこの活動は実験的だったのですが、来年もご一緒しながら、この子たちにぜひそういう方向性をリーダーとして、こちらから少し味を出して、ご自分それで生徒たちが自分で吸収してその中で育っていただけたらなということで今見守っている。新しい事業でした。

ICTのスマートフォン、高齢者の方々にそういう講座プラス、ぜひ犯罪詐欺予防のわかりやすい講習を少し入れていただきたいということでやっていたいております。

それからもう一つは、落合委員がおっしゃっていた、私たちが新しい試みとして動き始めた同感なのですが、社会人の方々が参加しやすい時間帯での活動ということも、やり始めたところでは、以上です。ありがとうございました。

委員長 はい、ありがとうございました。続きまして26ページご覧いただいて、湘南大庭公民館お願いします。

了戒委員 湘南大庭公民館から来ております。了戒です。26ページにありますように事業名のところでは人気のあるもの、あるいは新規のものを並べてあります。特に人気があるのは、上から二つ目の高齢者学級の「実りの会」という、例えば60人、30人と人数を決めるのに苦労するような大変な人気です。ずっと続いておりまして、これは参加している人に非常に実りがある、得るものが多いというものなのですが、色々な講座や外へ出掛けるなど多岐のことで学び合うということにもなるし、友達にもなれるというものです。ただ、高齢者学級って言うのですが、先ほどからお話のように、65歳っていうのは若い

ですね。やはり今、これからの問題ですが超高齢者ですね、70代80代、例えばその目標としては、行方不明者を減らすとか超高齢者に対する対応、対策というのが必要ではないかと思っています。

それから盆踊りがありますが新規のもので、7月ぐらいに行い、ここで盆踊りの練習などをして、盆踊りのリーダーを育てると聞いております。

公民館まつりが、10月28日、29日にありまして、去年は午前中だけだったのですが、今年は10時から午後3時までのほぼフルに実施することになっております。それから湘南大庭もデジタル講座でのニーズがとても高く、高齢者・超高齢者はですね、必要なことで、それを拡充していくというふうなことが盛り込まれております。

コロナとウクライナに明け暮れて、コロナは一応出口が見えた状況ですが、世の中の状況が変わってきているということで、我々の携わっている公民館事業でも、やはり時代が大きく変わってきているという認識を持っておりまして。どう我々も変わっていかなければいけないのか。というようなことを考えている状況です。以上です。

委員長 はい了戒委員ありがとうございました。続きまして、28ページをご覧ください。湘南台日下部委員お願いいたします。

日下部委員 湘南台公民館の日下部でございます。よろしくお願いいたします。

湘南台として、一番他の公民館と違うところは大きなホールがあることですね。ですから、それを利用して外国人とのスピーチ大会とか、それからサークルの発表会とかっていうものをやっております。

新規事業として20個、継続20個というので、私は新規が多くて大丈夫なのかと思ったのですが、新規と言っても、例えば3年前にやったことを今回やり直す。追加して実施するというような形で公民館の職員さんたちも、今年はもう少し大勢人を集めるためにどうしたらいいか、チラシを配布の仕方とか、そのPRの仕方を考えるとかということで、それなら問題ないかと思っておりました。

例えば、今は浴衣を着ていらっしゃる方は少ないですが、やはりお祭りとかになると、電車の中でも浴衣を着ている若い方いらっしゃいます。時々、上前が逆だったりするのを見かけると、直してあげたくなる気がするのですが、そういうのを見ているので、去年は浴衣の着方の講習をやりました。私たちにしてみれば、本当に切ない気分ではいるのですが、若い方たちに少しでもそういうものに慣れ親しんでいけるようなという形で取り組みました。

ナイトピラティスは、若い日中参加できない方を対象にということです。スマホ教室という形で何回か組んでおります。赤ちゃんのオイルトリートメントというのは、本当に小さい

赤ちゃん乳幼児を対象で、親子の触れ合いができ、なおかつ出席した親が親同士のコミュニケーションを取れるってということで、素晴らしいことだなと思います。地球っ子学級もそうなのですけども、これはずっと続いていることなので、素晴らしいことだなと思っております。今年の湘南台まつりも、シアターを使って大々的にやりたいなと思っていました。以上です。

委員長 ありがとうございます。

各公民館から、重点目標に対する自己評価ということで、お話を伺いましたが、鶴沼公民館がまだですので私からお話させていただきます。6ページをご覧ください。

鶴沼公民館は、新規事業22、継続28で合計50、公民館の中でも多い方かなとは思いますが。もちろん数が多ければ良いわけではなく、量より質だと思います。鶴沼公民館の評議員会の議論を汲み上げる形で、バランスよく事業計画が出されていると評議員の1人として感じております。

地域の特性に応じた事業ですけれども、鶴沼地域はやはり辻堂と同じく、高齢化も進んでいるのですけれども、小さいお子さんも多いため、幼児から小学生に至るまでの方を対象にした事業、および子育ての親御さんを応援するような他の事業もあって、バランスが取れていると思います。

高齢者を含む成人の方に対するものとして、去年は、ウクライナ戦争であるとか、激動する国際情勢について聞きたいというご意見が多かったので、今年もそういったことも含めていわゆる時事に関する講演会等も計画しております。好評だったのが子どもさんを対象とした鶴っ子スクエアです。子どもさんがいかに自分で考えて動けるかという、一方的に知識を詰め込むのではなく、考える力を育てていくのは非常に重要だと思いますので、今年も1週間にわたって開催します。私が所属しているサークルでくげぬま探求クラブですけど、一日担当しまして、ホールで、将棋、俳句、手作りおもちゃ、それから防災コーナーを作って、子どもたちに遊んでもらっています。なかなか面白いとお子さんには好評です。防災については、海に近いので、津波であるとか災害に対する備えというのは非常に重要で、防災かるたがあるのでそれを読み上げて取ってもらうこともあります。俳句コーナーでは、堅苦しいものではなくて、5, 7, 5のリズムで歌を作ってもらう。テレビ番組があつて最近は人気が出ているようなので人気です。囲碁将棋も人気です。あとは、**手作りおもちゃコーナーではおもちゃを作ってもらって、紙飛行機であるとか、そういったものも手を動かしてもらうこともやっています。今はスマホ依存になっちゃっているお子さんもいらっしゃると思うのですが、自分で手を動かして、物を作ることによって、考える力を育むのはすごく大事ではないか**と思っております。

ここには書かれていませんが、去年3年ぶり復活した公民館まつり。今年も、6月1日に公民館まつりの第1回の会議をやるのですけれども、各サークルの発表の場ということがありますので、皆さん張り切っておられる様子です。

古本市を今まで小さい会議室でやっていたのですが、毎年1万冊以上の本が集まっていたので、去年は特にコロナでおそらく溜まっているだろうということで、初めてホールで実施しました。今年は2日間に分けてやったらどうかと、公民館の方も休日出勤で来ていただかなくちゃいけないので、どうするかと6月の第1回目の実行委員会で議論になると思います。本が半分ぐらい売れ残ってしまいます。本がかわいそうというか、結局、古書店の方に取りに来ていただくことも考えたのですが、引き取っていただかないと資源ゴミになってしまいますので、非常に残念だなという思いがありますので、今後どうするかは検討が必要だと考えています。

公民館まつりは、地域の住民が、町内会も含めて行う事業なので、地域の結束を強めるいい事業だと思います。こういった機会を通じて地域の連携、連帯を深めていけばと思っています。

最後にIT関係なのですがスマホの講座は各公民館でおやりになっていますが、本当に重要だと思います。特にスマホあるいはパソコンを使われる高齢者の方も増えています。僕自身感じているのですけれども、今高齢者を狙った詐欺は非常に多いですね。いわゆるスパムメールは非常に巧妙になっていて、前は変な日本語なので怪しいのはすぐ分かったのですが、今は書いている文章も非常に巧妙な例になっていて、判断が難しい。ぜひそういったことを評議員会でも取り扱ってほしいと申し上げているところです。

委員長 各公民館から今年の授業事業計画についてのポイントについてお話をいただいたので、それぞれ別の公民館に対して何かご意見とかあったらお願いします。

落合委員 皆さんの説明を聞いて、地域の環境に応じた色々な事業があるなと思いました。特に、自然環境を見ていくとか郷土の盆踊りというのはよかったと思います。

資料の最後に載っている集計表について、私どもも夜間に事業をやる際は、人が来るかということが非常に話題になりました。開催時間帯を見ますと、平日夜間というのが片瀬は1回と載っているのですが、藤沢で6回、村岡では4回、湘南台では6回ということで、内容を伺いたい。先ほど委員長さんからありましたように、職員は残業の制限などがあると思うので、たくさんやってらっしゃる藤沢公民館の内容はどの様な内容なのか、同じように、土日も村岡に24回で平日よりも多いので、どのように工夫されているのかをお伺いしたい。

もう一つ、委員長から話がありました古本販売ですが、片瀬公民館でもずっと片瀬だより編集委員会が公民館祭り事業として実施してきました。コロナ前までずっと100円とか200円、300円程度で販売してきました。残本は全て、古本業者にダンボール箱単位で引き取って貰っていました。始めたのは10年以上前ですが、最初の頃は知られてなかったので本好きの人が来ました。次第にあんまり見たことない人が来て、開店直後から沢山買っていました。やがて、その人たちは古本を安く仕入れて転売等が目的とわかりました。初めは早く売ればと思いましたが、古本販売の趣旨と違うので、その後は購入冊数を制限しました。片瀬中ボランティア部も参加していました。本が少なくなって開催日を2日から1日に変更し、コロナ禍からは止めています。今年も多分出来ないと思います。

委員長 ありがとうございます。確かに古本業者はいわゆる本の中の価値じゃなくて、本が綺麗かどうかで、そこが唯一のポイントになっているようで、そういった意味では、中古だから買ってもらえるというものもないようです。今、御質問があった、夜間事業について、藤沢公民館の鈴木委員、6つ事業がありますけれども職員の方はどうされたのでしょうか。

鈴木委員 全部は紹介できてないですけども、4ページにサンセットコンサートというのがあります。ご存知の通り藤沢公民館はFプレイスという建物にありまして、労働会館関係の方と一緒に組んで、事業をやっております。

6階にレストランがありまして、テラスも結構広く、江ノ島などが見え、とても眺望がいいところです。そこを使いまして、ジャズコンサートをやりました。時間は7時から9時ごろで、私は参加してないのでよく分かりませんが、職員の方もついているという話は聞いています。夜だったら参加できるという市民の方に好評だった一つの事業ではないのかなと思っております。

委員長 Fプレイスの上は、いわゆる外部の業者が入っているのですよね。その業者の方と協力して実施しているので、あまり職員の方の負担になっていないということでしょうか。

鈴木委員 はい。負担になっているってことはありません。

内田委員 村岡公民館は、夜の事業で、夏休みに子どもたちにキャンプファイヤーをいたします。夕方頃に集まって、夜遅くまで皆でワイワイ騒いで、以前はお泊りしたのですが、今は、

お泊りはできなくて、保護者の方にお迎えいただいて、職員も8時9時頃に解散ということです。

土日の事業については、しっかり把握してなくて申し訳ないですが、集まりやすい講座や事業に関しては、職員の方たちもとても考えてらして、土日だと皆さん来てくださるという結果が出ると、やりましょうということで職員の方も出勤してくださっています。

委員長 ありがとうございます。私から遠藤の飯島委員にお聞きしたいのですが、60代で若手だとおっしゃっていましたが、私も73歳でサークルの中では青年部だと言われています。最高齢が92歳なので、それだけ元気な方が増えていると思うのですが。一方、慶應の学生さんが参加してくださるということで、すごく良いと思うのですが、どうやって学生さんの協力を得られているのですか。

飯島委員 慶應の七夕祭というイベントがあり、その実行委員に自分が全部関わっているので、毎年実行委員長がセンターに来られます。それがきっかけで、センターに紹介して、センターで事業があるからと紹介し、お手伝いをしてくれる人が増えたというものです。公民館だけではなく、遠藤の全部の事業に慶應の学生さんに来ていただいています。公民館まつりは、いつも中学生がお手伝いしてくれたのですが、まだコロナ禍で参加できないため、今年から慶應に頼んでいろいろお手伝いをしてもらっている。その他、公民館まつりは人手が足りないので、自分とこの会社の間で準備から何から、パネルを2階3階に上げるにも、もう高齢者のサークルが多いので、そういった準備して下ろすところまで、全部慶應の学生の協力でやっているのですが、無償のボランティア形式で色々な事業的なことは結構参加してもらっています。頼むにあたって、頭になっているのは学生であって、慶應の事務局がいるわけじゃないのです。実行委員長へ連絡を取っての話合いで、毎年、実行委員長も変わりますので、どういったことが年間あり、それに対してどういうお手伝いができるかということまで全部話し合っただけでセンターへ伝えて、センターから担当を教えて、それから割り振りしてもらっています。また、日大の学生も応援できてもらい、彼岸花まつりとあじさい祭りを行っています。これについては、日大の生徒と先生が一緒になって毎年来ていただいています。以上です。

委員長 ありがとうございます。非常に素晴らしいですね。そういう若い方が、協力していただけることは、社会人になっても何らかの形で公民館の活動に加わってくればさらにいいと思います。鶴沼公民館にも公民館まつりではテント張りがあるのです。テント設営数がすごい重労働で、5、6年前にこれは業者に委託しようかなんて話があったのだけど異論が出て、

みんなで作り上げる公民館まつりだから我々、全体でやりましようとなったのですけれど、さすがに高齢化が進んでくると危ないので。本当にそういう若い方が、来てくださるのはすごくいいなと思いました。

飯島委員 遠藤では、テントは店舗を出す団体から何人って決めて、人を出してもらっています。店舗の人たちが全体を順番に立てて、解体も事務局も一緒にお手伝いしますが、ほとんど店舗を出している人たちが全部取り壊しします。高齢者結構いるのですが、そういうの好きそうなので、そこだけは結構きますね。

佐藤委員 元気なご老人が結構大勢いらっしゃるのですよね。元気なご老人、高齢者の方ちょっと角度を変えて見てみると、つい数日前でしたが、面白いことを知りました。日本の男子平均寿命は79.8歳で、もうちょっとですね80歳ですね。それが、全国ナンバーワンが川崎市麻生区なのです。84.8歳です。なぜかということが報道されていました。そしたら体操をやっています。散歩の途中にクイズを解きながらっていうと、脳の脳回路がまたね、認知症防止の回路が働くわけですね。それだけかなと思ったら、麻生区は善行と同じで、坂がすごく多くて、そこで育てると、自然に足腰が丈夫になる。それが一番の要因ではなかろうかと言われていました。

高齢者の方々が、色々な事業に参加されている。参加されているというのは、若いところからときから参加されていて、ずっと継続でそしたら気持ちだけは若いけれどいつの間にか年を重ねてしまった。ここで話題になるのは、どう次の世代の方をうまく導入して、サークルや事業を継続させていくべきか。といったところがある大きな問題でなかろうかと。

もう1点は、そういうサークル活動に参加される方々は、問題ないと思います。問題は1人住まいの方。それで一見すると頑固そうに思える方。サークル活動は、自分はいいや。という方がいらしたときに、どういうふうに町内で対応するか。前々回ぐらいで、町内会を脱会していく人たちが、若者だけではなくて、高齢者も増えているという話がありました。高齢者1人ですと、そのときに負担の方が多いから、辞めてく面倒だからやめてく。そこをどうしたら良いか。人生100年時代そのためには健康年齢も大切ですが、それ以上に心をどうみんなでお互いに励まし合うか、そこにかかってくるのが高齢者の心の動きを高齢者ご本人も勉強しなくちゃいけない。関わる方々全員が、高齢者の気持ちってこういうものだよっていうことを知っておかなきゃいけない。怒りや不満から、喜びや充実へ何か転換できるような仕組みですよ。それから高齢者等と若い方々がともに育つ仕掛けというのは、もう多くの公民館事業の中に取り入れられているのですが、次はPR方法が何かないかということ。一つには呼びかけですね。どんなことでも気軽に話を伺いますよっていうものが必要かと

思います。私は心理学的に考えると、そういう導入から入った方が聞き出しやすいし、その方の持っている一番の問題点っていうのを理解できたならば、その方が変わります。乗り合いバスに、単にこういう事業の活動を行っていますという広報では参加しませんから。

それから今ある高齢者と若者たちの交流事業を、より良い成果が得られるように、ここの皆さんで頑張って支援手助けの形がとれたらな、そんなことを考えています。ありがとうございました。

委員長 はい、佐藤委員、問題提供ありがとうございます。確かにボランティア活動は、一般的な人間心理としては正しいことやりたいけど、面倒なことはやりたくないってはっきり言っちゃうと、そういった人間心理が働くのでいかに変えていくかですね。この辺は非常に問題が大きいので、また改めて公運審でもね、議論していただければと思います。

副委員長 違う話なのですが、事業計画総括表を見たときに例えば新規事業がいくつというのが書いてありますよね。ですが、これが具体的にどの分野のどの事業なのかがわからなくて、どこが新しいのだろうって探したのですよ。皆さんもさっきお話が出ましたけど、どこの事業が新規事業になるのかわかるのであるならば、例えば事業総括表の集計のところに、対象者とか項目がありますけど、内数で新規いくつとか書けば、ここの事業が増えたのだなど、そのカテゴリが大体わかると皆さんが何か理解しやすいのではないかと思ったのです。また、重点目標該当事業でも同じなのですが、項目が書いてありますけれども、新規事業であるならばここに（新）とか書いておけば、これを今年新しく始めたのだっていうのが、表を見ることで一目瞭然にわかるので、できればそういう形にできないかなと思ったのですけれどもいかがでしょうか。

事務局 次回こちらの資料を作成する際には、検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

委員長 関連して私も総括表を見ていて、思ったのは、例えば総括表の集計で見ると、対象者の「女性」「男性」が0っていうのが多いですね。これは女性のみを対象とした事業であるという、男性のみを対象とした事業とかそういう意味だと解釈しているのですけれども、あと小学生中学生高校生のこの辺りは、ちょっと整理した方が良いのではないかと気がしてまして。市民一般と成人というのも、これどう分けるのか、各公民館の方でもど

ちらに分けたらいいのかと分からないことがあると思うので。次回の集計のときに、片付け整理していただけたらと思いますが、どうでしょうか。

事務局　そうですね。この辺の表記方法等についてはまた次回作成する際に、よりわかりやすいような形でできるよう検討させていただきます。

日下部委員　総事業数は分かるのですが、それに対して実施回数が、辻堂公民館さんがずば抜けて多くて、総数が大体多くても200ぐらいのところ、500となっているのは、何を勘定してこの回数になったのでしょうか。

事務局　手元に資料がなくて申し訳ないのですが、やはり連続講座とかそういったものが辻堂さん多いということですので、1事業に対して回数が増えているという状況はあると思われま。

委員長　5回連続講座っていうのは、6回とカウントするか1回とカウントするかということですね。その場合のカウント方法は、各公民館の方に指示してください。

事務局　次回集計をお願いする際には、明確にわかるように指示をさせていただければと思います。

日下部委員　対象者なのですが、未就学児と保護者とありますが、乳幼児と保護者を新しく設けるってことはできないのでしょうか。乳幼児は幼稚園の子どもたちまでが入ると思うのです。未就学児だと幼稚園まで入って、赤ちゃんは入っていないのですよね。赤ちゃんとおイルトリートメントっていうのを計画していて、親子の触れ合いとっても大切なことでいい企画だと思っています。対象者が未就学児と保護者ってことになっていたの、そこを伺ったら、ここの対象者の選択肢が決まっているということで、私たちの方は赤ちゃんを対象ということは書くのですが、この対象者のくくりは見直せるのでしょうか。

事務局　集計表は以前から使用しているもので、この内容が、庁内各課の計画や刊行物などの報告にも活用されておりまして、それらの内容を勘案して、区分や集計方法などを設定させていただいております。一方で、私たちも事務のなかで煩雑さや、統一性がないと感じているところが正直ございます。そのため、今年の集計に合わせて必要な項目の確認を進めております。

次年度の計画の作成に向けて改善させていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員長 説明ありがとうございました。事業計画については以上といたします。今年度は、コロナ関係の制約は基本的になくなっているとはいえ、まだ完全ではありませんので、事業計画を実施する上で気を使われると思いますけれども、よろしくお願いいたします。

公民館運営審議会は、6月末で任期が満了となります。よって本日の会議が最後の審議会となります。任期を振り返って最後に簡単に一言ずつ、委員の皆様からご挨拶をお願いしたいと思います。まず中学校の中岡先生から、よろしくお願いいたします。

中岡委員 御所見中学校の校長の中岡です。こちらの方の審議会の方に2年とちょっと参加ということでさせていただきまして、あまり力になれなかったという思いでおります。振り返りましてもこの公民館事業というのが、本当に多岐にわたり、その役割のところで重要な地域の中での位置付けとなって、運営されているというのを本当に感じます。持続可能という部分で、学校もそうですけれどもあまり苦しい運営になると、難しくなってしまうので、運営というところを危惧するところでもあります。学校の方も、PTAの入会が、ここ数年で激減しています。PTAに入会しなくても学校とその保護者の関係は変わらないのですが、そういった会に所属するということを好まない方が増えているのかなど。それは自治会においてもそうだという声も聞いています。何か所属するという形ではなく、個で対応、もしくは個で参加するというのが今の地域の中でのところの動きなのかなというふうに感じます。

そういった意味では、事業が個で参加しやすくいけば、誰ということはないのだけでも新しい出会いがあり、そんな中で結びつきが生まれていくというような、関わり合いが必要なのかと感じています。本当に公民館事業が人と人を結びつける新しい社会を作っていく上で、重要な役割をこれからますます担っていくのだろうと思います。そういったところに関われたことを本当にありがたく思いますし、ここで得た知識を学校運営の方に反映させていきたいと思っています。お世話になりましたありがとうございました。

委員長 はい、ありがとうございました。小林先生はお休みなので、大石委員よろしくお願いいたします。

大石委員 一般から参りました大石と申します。2年間参加させていただきまして、娘がずっと参加してきた公民館活動と照らし合わせながら、今日の皆さんお話を伺いつつ、問題に直面

している中で先ほどのお話もありましたように、高齢化、超高齢化という言葉をお伺いまして、自分自身ももうそこに向かいつつある中、今回、資料を見ましても、高校生の参加がゼロというところが多いところで、慶應学生や日大生を絡めてのボランティア活動での公民館参加というところも良い活動だなんていうことも伺い、人生120年時代に向かっているというところで本当にいろいろ頭がいっぱいになるぐらい毎日のメディアを見ながらも、悩んでいる最中です。

この度いろいろ勉強させていただきましてありがとうございました。

委員長 続いて公募の方青木委員お願いいたします。

青木（美）委員 コロナ禍の政府の方針で、集まってはいけない、繋がってはいけないというのは、まさに公民館が目指していたものが制限され、一時本当に公民館がなくなっちゃうのじゃないのと公民館の職員と話をしたことがあるくらい危機感がありました。コロナ禍が3年ほど経ちましたって、新しい課題がすごく見えてきているのではないかなと思います。先ほど中岡委員からもありましたように、なり手が少ない、個の参加を望むということはますます強くなっているのではないかなと思いますので、個から地域での繋がりを改めて作り直すぐらいの必要を感じています。子どもたちも含め、そういうところの担い手となるのではないかと期待したいと思います。ありがとうございました。

委員長 それではリモートで今日参加していただいています。あちらの画面をご覧いただけたらと思います。大町委員聞こえますか。

大町委員 本日はこのような形の参加になってしまい申し訳ありません。自分がお役に立てたことがあまりなくて、心残りや悔しさもありますが、公民館の事業がこのように皆様の様子を反映させて決められていることを知ることができて、私にとっては、大変良い機会となりました。これからも公民館が地域の方々にとって居場所になるように、時代の流れもくみ取りながら、良い意味で変化をしていきながらあり続けてくれればよいなと思っています。ありがとうございました。

委員長 はい、大町さんありがとうございました。それではですね各公民館の方から本当に時間がないので、30秒で一言ずつ、2年間振り返って感想などお願いいたします。

鈴木委員 藤沢公民館の鈴木です。運営審議ということで参加させていただいたのですが、ほとんど私が勉強させていただきました。いろいろご意見を聞きながら視野がすごく広がりましたので感謝しております。

20代30代の社会人が参加するのはとても少ないという話を聞いているのですが、時間の関係もあるかと思いますが、内容も精査しなくちゃいけないのかなと思っているのです。先ほど言いました開かれた公民館、それから若者が利用しやすい公民館っていうのをこれから一市民として大いに協力していきたいなと思っております。いろいろありがとうございました。

内田委員 村岡公民館の内田でございます。日頃は自分のテリトリーの中の公民館だけのことで精一杯で、ここの席に参加いたしますと、市民の色々な公民館の活動が本当にしっかり聞かれて、これもいいなと思いながら、やはり日ごろの自分たちの活動に精いっぱい、なかなか実施できるチャンスはなかったのが残念だったなと思っております。以上です。

青木（純）委員 六会の青木です。公民館は、こうやって皆さんがどうあるべきかを一生懸命考えられて、またそれを一つ一つの公民館が、この地域の特性でどういうふうにやっていこうかと、本当に公民館評議員にならなかつたらわからなかったこと、またここに参加させていただいてこんなに藤沢市内で地域、地域によって違いがあるということも、やり方がまたそれぞれ違いがあるととても勉強させていただきました。ありがとうございました。

落合委員 ここでやっていて印象に残っていたことは、地区の担当者が各公民館の事業を交流した機会が始まったことが良かったと思います。机上プランでは何をやっているかわからないけど、交流したことで理解が深まったことや動画で配信する公民館がずいぶん多くなって、そういう取り組みは素晴らしいなと思いました。今日もリモート参加も出来るということ。いろいろな方法で交流が繋がっていけば、新しいものができるかなと思います。あと、先ほどの高齢者の話題ですが、高齢者も若い人も参加するものが少なくなっているから、他の団体や社協の皆さんや自治会と一緒に繋がっていくことが大事だと思っています。高齢者は重荷じゃないですから、高齢者は一番公民館に来られています。高齢とは豊かな経験をされた証ですから、負担だと思わずに、私たちの支えてくれる人たちだと思って連携していけたらと思っています。片瀬では、若い人対象の事業を企画してもなかなか時間がないようで、苦勞しています。まずは公民館事業を知ってもらうことを第一に、事業の広報と発信に努めています。私は公運審委員を五、六年務めさせて頂きました。貴重な経験と交流の機会でした。ありがとうございました。

猪野委員 明治はサークル数が200を超えるサークルがあって、地域の皆さんは場を求めているというの、日頃本当に肌感覚で感じております。地域の方がサークルに入りやすいような仕組みをこれからも作って続けていくことが大切だと思います。公民館事業に関しては、それぞれの公民館の事業のやり方あるいは切り口などを知ることによって、普段どうしても地域内で考えると固まってきちゃいますけれども、新たな視点っていうのがこの場で作ることができて、すごく参考になりました。ありがとうございました。

森委員 私も長年、会社の人間で、公民館等の関わりは全くなかったわけです。私は80歳でなりましたが公民館の役割や重要性をこの4年間でますます学ぶことができました。これで地域社会とどう繋がっていくか、それで地域をどう活性化していくかという面において、公民館の役割は重大になっていんだと改めて認識することができました。これからの公民館活動について背後から協力していきたいと思います。よろしくお願いします。

有賀委員 私は十数年公民館の職員として働いていましたので、どうしても公民館寄りの考えになっていました。皆さんのお考えを伺うと、なるほどそういうふうな考え方もあるのだなと気づかされることも多かったです。公民館の方にこんな意見もあるのだよと伝えられていたらいいなと思っています。どうもありがとうございました。

櫻井委員 こちらに参加させていただいて、意見をほとんど言えないまま、今年度で後任の方と変わることになったのですが、色々な民間の事業などもお聞きできたので、これは持ち帰りまして良いところを取り入れて、辻堂公民館の方もますます発展して協力していけたらと思います。いろいろありがとうございましたお世話になりました。

佐藤委員 善行公民館の佐藤です。皆さん素晴らしい方々だなと思いました。本音をそのまま出してくださって、そして聞き取りがお上手なのですね、多くを感じとるこの2年間の日々でした。特に重点目標、これを掲げるという意味で関わらせていただいたことに本当に感謝申し上げます。私もますます成長させていただきたいと思っていましたが、ありがとうございました。

了戒委員 2年間おかげさまでいろいろ勉強させていただきまして、私自身としては公民館、それから公民館事業それからさらに言えば公民という意味ですね。そんなことも時々考えるよ

うな機会を与えていただき、全くまだ何もできていないのですが、今後もし出来るなら少しずつ皆様のお役に立てるような発言をしていきたいと思っております以上です。

日下部委員 初めは全然知識もなく、こういう会があるってことを知らなくて参加して、生涯学習プランがどうのとか言われても、ピンとこなかったのですが、ようやくここにきて重点目標というもの決められて、それが全部の公民館で同じような形で同じような目標に向かって活動されているってことをよく理解できるようになりました。ありがとうございました。これはやっぱり素晴らしいことだなと、公民館が同じレベルでもって同じような考えを根本的に持って活動かされているのだからよくわかりまして。これからは少しでも公民館の事業に参画積極的に参加していきたいと思っております。ありがとうございました。

三宅副委員長 皆様には大変お世話になりました。この審議会に参加しまして、皆様の貴重なお話やご意見をお伺い、各公民館の様々な取り組みとか、積極的な活動をすることができましたことを大変幸いに思っております。

特にこの2年間はパンデミックによりまして、人と人の交流の機会が喪失しまして、一方で急激なデジタル化の波が押し寄せてきて、これまでに経験したことのないような危機感の中で、公民館のあり方を改めて考え向き合ったように思っております。そうした中でも各館では様々な工夫を図られて、困難を乗り越えて、公民館の新たな1ページを切り開かれたと思っております、公民館として大きく飛躍したというふうに考えております。皆様のご努力と熱意に心から敬意を表しております。

地域では今、超高齢化それから少子化に加えまして、格差の拡大、人々の孤立が進んでおりまして、これからさらに厳しい状況が**あらわれるかもしれません**。またアフターコロナを今度はどう扱うか。リアル事業と、それからオンライン事業のすみ分けはどうやっていくのか課題も多くあるかと思えます。そうした中でこうして公民館全体で、皆さんで考えそして協力して向かっていくことで市民の方の新たな一歩に近づけているような形で取り組んでいければいいかなというふうに思っております。

公民館というのは地域そして暮らしに根ざした生涯学習の拠点でもあります。子どもをお年寄りとして働く人それから障がいのある方、それから外国籍の方的マイノリティの方など多様な人々が気軽にそして継続的に活用できる公民館で魅力的な事業に取り組んでいただきまして、利用者の裾野の拡大を図りながら、地域で愛される公民館としてさらに発展していただけると嬉しいなというふうに思っております。

皆様には大変お世話になりました。本当にありがとうございました。委員長も本当にありがとうございました。

委員長 最後には私からですけれども本当に2年間拙い司会で進行失礼いたしました。私自身も滑舌がそんなにいい方じゃないので、聞きづらいこともあったかなと思うのですが、それは申し訳なく思っております。皆さんから非常に活発にご意見をいただいたので、これが今後の市全体の公民館運営について非常に大きいプラスになったのではないかなと思いますので。また来期も続けて委員を引き受けてくださる方は、今ひとつ引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。私自身の感想なのですけれども時間もありませんので、一つ言えるのはまず健康です。当たり前なことなのですけれども、公民館の目的はいろいろあると思うのですが、地域住民の健康作り、健全なる体に健全なる精神は宿るじゃないのですけれども、それが一つの公民館事業の大きな目的ではないかなと思っております。あと、いかに幅広い世代の方を公民館活動、公民館に来ていただくかが課題です。私自身も13年前に定年退職するまでほとんど公民館に足を運んだことはなかったのです。公民館について、一般的な皆さんの感じでは、公民館っていうと古いイメージがあるのじゃないか、公民館は私関係ないわってイメージがあるのではと思っております。過激な意見かもしれないのですが、公民館って名前をやめてタウンホールとかね。名前から変化する。そんなことも考えたらいいのではないかなとも思いました。この2年間本当にお疲れさまでした。

職員の方々も本当にお世話になってありがとうございます。最後に事務局の方からお願いできますでしょうか。

事務局 横田と申します任期の最後ということでございますので、ご挨拶させていただきます。皆さんのお話にもあったように、この2年間は、まだコロナ禍ということでいろいろな都合があったと思います。本当に皆さんの協力の元で審議会がきちんと開催ができて、本当にありがたく思っております。

事業で言えば、昨年度、久しぶりに公民館まつりということで、私も回らせていただいて、本当に様々な工夫の中で行われているのだなとよく分かりました。何より、市民の皆さんが、本当に笑顔で楽しい時間を過ごしているなど改めてよく分かりました。本当に待ち望んでいたのだなと思っております。

それから先ほど各館のご報告も大変勉強になりました。特にICTですとか、スマホの関連は、ほぼ皆さんお話しされたと思います。市役所でも、例えばZoomでの会議ですとか、あるいは今日のようにZoomと対面での併用ですとか、そういったものが当たり前になりつつあります。例えば、書かない窓口ですとか、行かない窓口ですとか、そういったことも現実化に

向けてですね、いろいろ動きが始まってきております。ただ一方で、ICTが得意ではない方もおりますので、デジタル化で業務を効率化させ、人材をいろいろな相談事などに仕事を振り分けていくのが我々の役目なのかなと思っております。いずれにしても、工夫をしながらの事業というのは、今後もずっと続いていくのかなと思いますので、引き続きよろしく願いをいたします。

最後になりますけれども、これまでのご意見あるいはご提案に感謝を改めて申し上げるとともに、ご理解ご協力そういったものにも、改めてお礼申し上げまして、簡単でございますがご挨拶させていただきます。2年間ありがとうございました。

日下部委員 図書館協議会の方の委員になっております。図書館協議会も本日、会議だったのですが、こちらの方が最終回だったため、図書館は欠席させてもらいました。図書館の方も、新しいところに移るためのいろんな行事、いろんな計画などが練られておまして、あくまでも図書館としてはいつでもどこでも誰でも何でもっていう、そのモットーのもと図書館運営がなされていて、最後になって申し訳ありませんけれども、そういう形で今日また会議が行われております。ありがとうございました。そういうことでございます。

委員長 はい、ありがとうございました。本日は以上になりますが、何か最後にこれだけは言っておきたいとか、何か言い忘れたことでございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、これにて閉会としたいと思います。2年間本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

***** 午前11時56分 閉会 *****